

アドバンストスポーツJの授業評価・授業研究報告書

保健体育講座・福田 隆

1-1 授業の概観

本授業は、スポーツキャリア開発コース必修科目として3年次後期に開講する科目である。また、スポーツ指導者養成コースと保健体育専修は、選択科目として履修することができる。今学期の受講学生数は、8名であった。

1-2 授業の目的：

この授業は、体育・スポーツの指導者としてバレーボールの指導に関する知識とデモンストレーション技術の獲得を目的とする。

また、バレーボールの初心者を対象として基本技術獲得コースと応用技術実践コースに分けておこなう。基本技術獲得コースでは、初心者の指導法とデモンストレーション技術の獲得を目的とする。応用技術実践コースでは、より高レベルのスキルの獲得を目差すとともに、指導者としての在り方や指導法を学習し、バレーボールの技術やトレーニングを指導することとする。

1-3 授業の到達目標：

1) (知識・思考)

・バレーボールの基本動作や指導方法を説明できる。効果的なトレーニング方法を理解する。

2) (技能・表現)

・技術的に高レベルのパフォーマンスを発揮することが出来る。バレーボールゲームが実践できる。

3) (意欲・関心・態度)

・バレーボールの楽しさを体感し、コミュニケーションを取りながら、主体的にスポーツに取り組むことができる

1-4 授業の概要：

基本技術獲得コースでは、総合型地域スポーツクラブのバレーボール教室に参加し、初心者の指導法とデモンストレーション技術の獲得を目指す。

応用技術実践コースでは、バレーボール部の練習に参加するなかで、各自が設定したテーマについて、問題の解決法を研究するとともに、具体的な実践力を高める。

2 授業評価法

授業の評価は、授業内容に対する試験の結果と小テストと実技テストのときに実施したアンケートの結果によって行った。学生アンケートの形態は、自由記述型のものとして幅広く学生の評価を得ることを目的とした。

3 授業評価結果

(1) 今年度の受講者は、すべてバレーボール部に所属する学生であり、基本的な知識や実技能力は、ほぼ習得済みであった。そこで、本授業では、初心者を指導する指導方法の学習から指導実践を通じて、指導能力の向上を中心に授業内容を展開した。

(2) 授業の資料としてプリントを配布したが、資料の内容の理解は早く、実践することも容易であったが、指導書や文献を調べ個々の指導計画を作成するに当たっては、不十分な点も多く認められた。特に、小学校低学年のバレーボール指導に関する指導書が殆どないことや指導に関する知識と現場での状況（対象者の体力・発育状況・運動能力にかなりの個人差があった）に大きなギャップあったあらである。対象者の質を揃えることは困難であることから、指導方法のバリエーションを増やすことや指導計画作成にあたっての指導が不十分であったことが課題となった。

(3) バレーボールの実技能力やデモンストレーション能力は、かなり改善することができたが、指導対象者が上手くできない場合の原因の分析法や指導・修正法について助けを求めるケースが多くあった。これらの点は、指導場面では永遠の課題であろうが、少しでも多くの体験を重ねる機会を作りたい。

(4) 指導場面以外に対象者と自由に触れ合う時間を多く取り入れた。この結果、人間関係が円滑となり、学生のモチベーションも高めることができたと思われる。しかし、あまりに仲良くなりすぎて、指導者と受講者の関係が甘くなりすぎた場面もあった。適度な緊張感を保っていきたい。